

建設コンサルタント業務等における 総合評価落札方式の実施状況について

平成20年度のデータによる集計

目次

1 全契約状況	p.2
2 総合評価落札方式による契約状況	p.3
3 落札者の状況	p.4 ~ p.6
4 評価項目毎の採用状況	p.7 ~ p.9
5 評価テーマの設定状況	p.10 ~ p.12
6 評価項目毎の得点率	p.13 ~ p.15
7 落札率の分布状況	p.16 ~ p.19
8 まとめ	p.20 ~ p.21

建設コンサルタント業務の契約状況

建設コンサルタント業務等の契約状況

・建設コンサルタント業務等の発注件数は13,210件。
 うち、総合評価落札方式は317件(2.4%)。対前年比で約14倍に増加。

地方整備局等(港湾空港除く)における契約状況

(件数)

契約方式	H19年度	H20年度 (12月累計)
価格競争	(51.5%) 8,910	(46.7%) 6,165
総合評価落札方式	(0.1%) 23	(2.4%) 317
プロポーザル方式	(29.5%) 5,112	(46.5%) 6,143
特命随意契約	(18.9%) 3,266	(4.4%) 585
計	(100%) 17,311	(100%) 13,210

H20年度は速報値

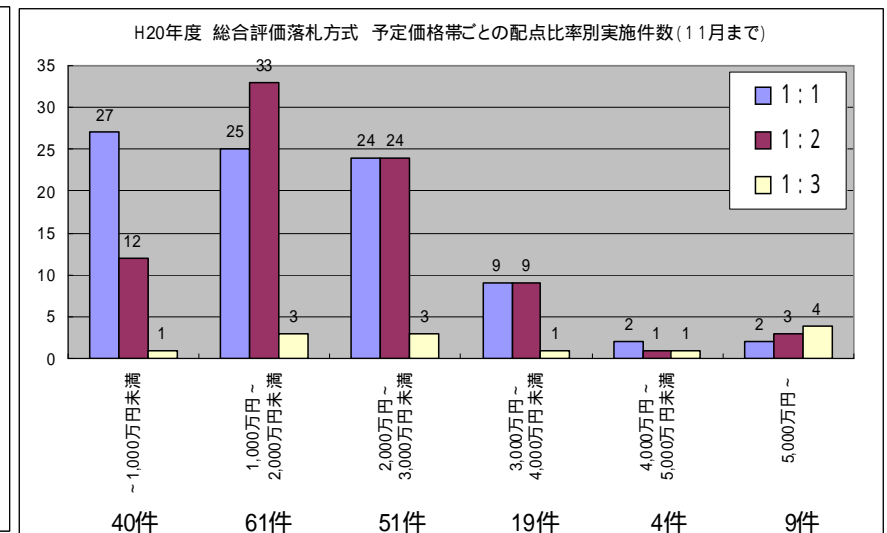
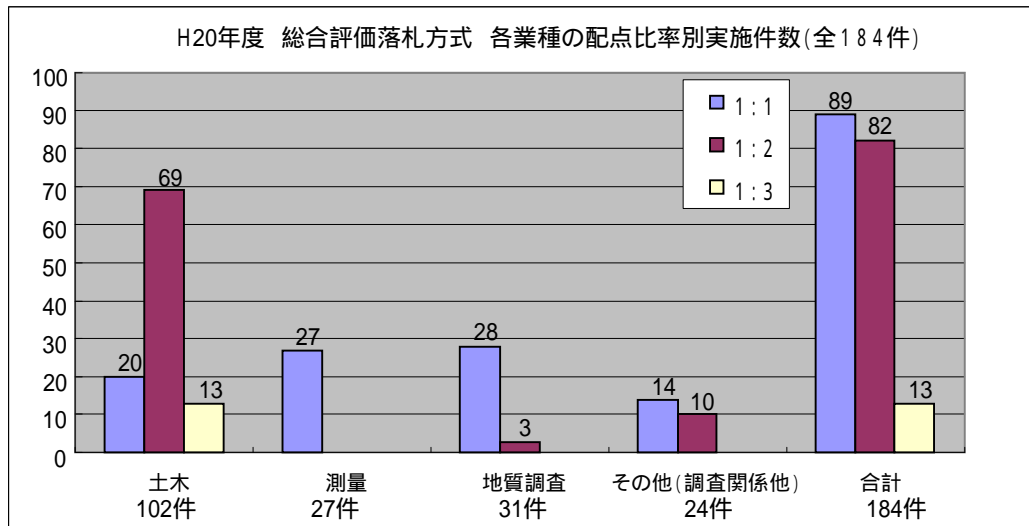
地方整備局等調べ

5業種(土木、測量、地質調査、建築、補償)

総合評価落札方式による契約件数(概要)

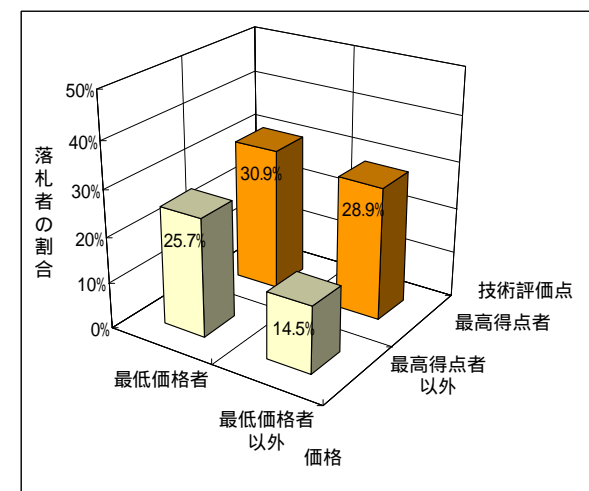
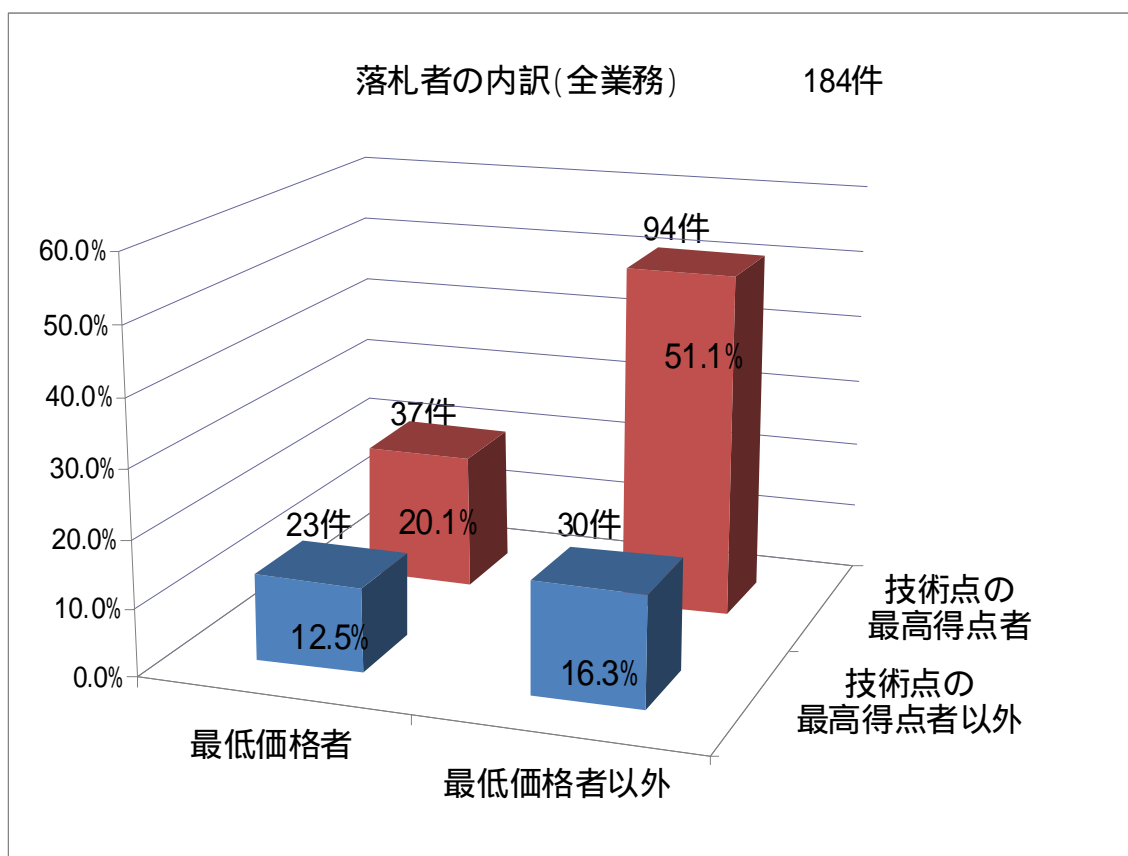
総合評価落札方式による契約状況

- ・平成20年度総合評価落札方式317件(12月末まで)のうち、発注者支援業務等を除く**184件を調査**。
- ・業種別内訳は、土木102件(55.4%)、測量 27件(14.7%)、地質調査31件(16.8%)、その他24件(13.0%)。
- ・価格帯の内訳は、4,000万円未満が**171件で全体の約9割**を占める。
- ・価格と技術の比率別では、1:1が89件(48.4%)、1:2が82件(44.6%)、1:3が13件(7.1%)であり、1:1と1:2両方で9割以上を占める。



落札者の状況(全体)

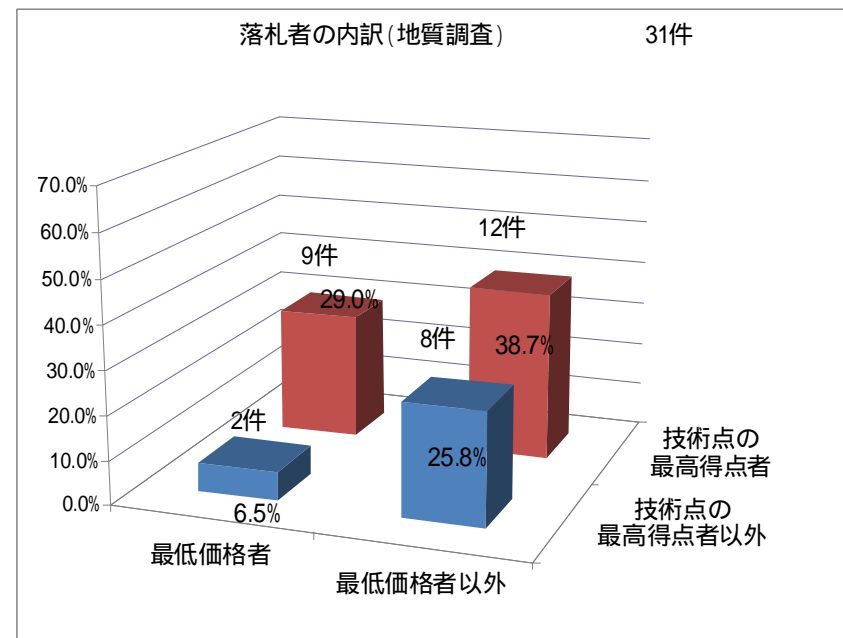
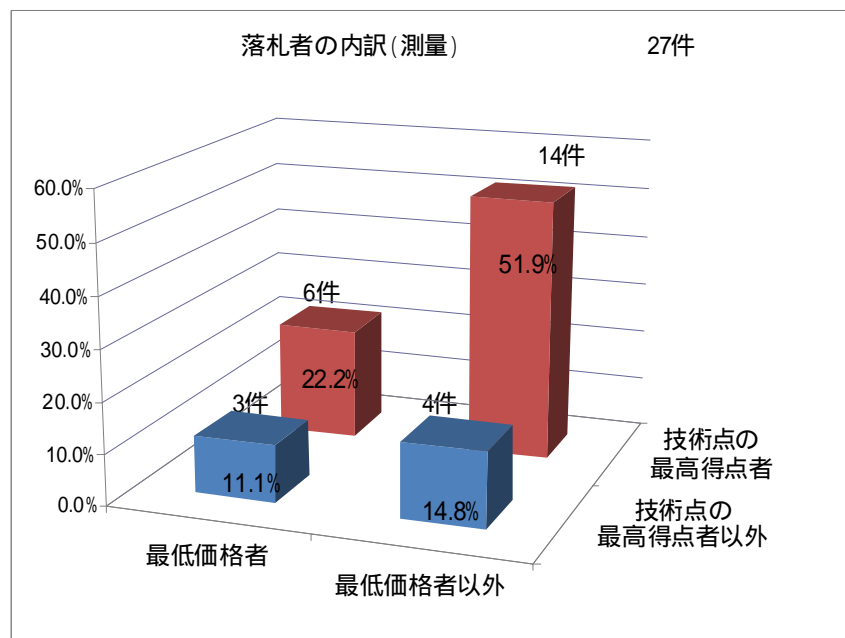
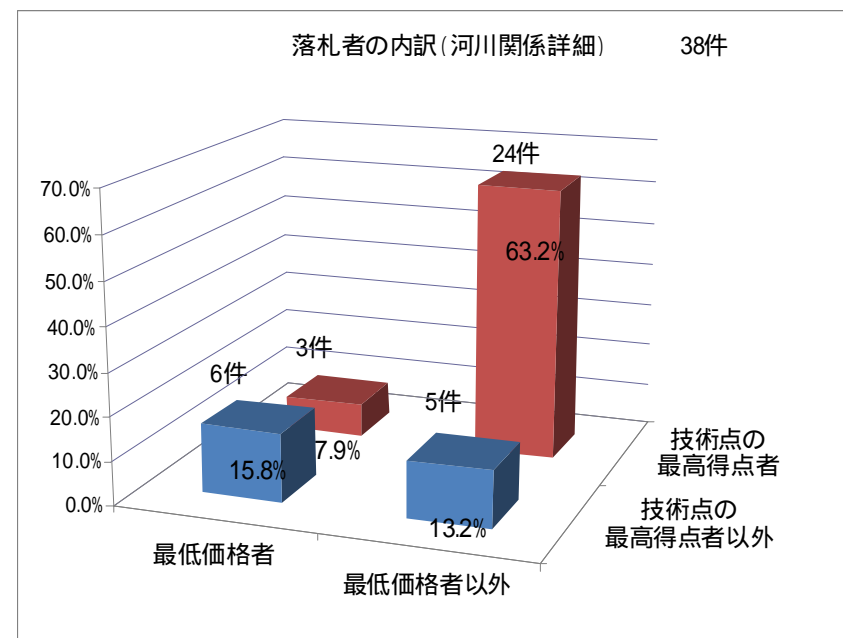
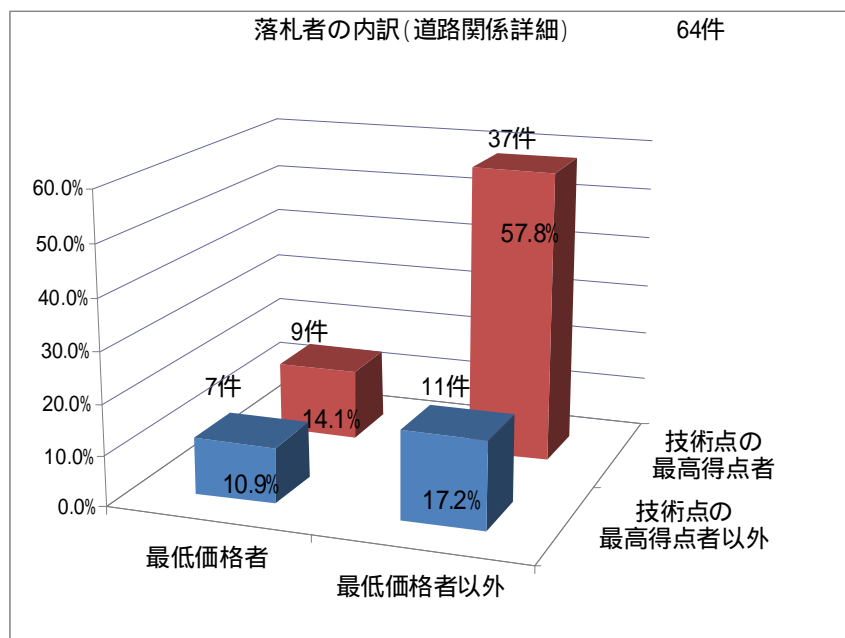
- ・技術点の最高得点者(最低価格者以外)が落札した割合は、94件(51.1%)であり、過半数を占める。
- ・最低価格者を含め、技術点の最高得点者が落札した割合は131件(71.2%)であり、**技術点による競争が優位な結果**となっている。



参考

平成19年度における、工事の総合評価落札方式の落札者の内訳

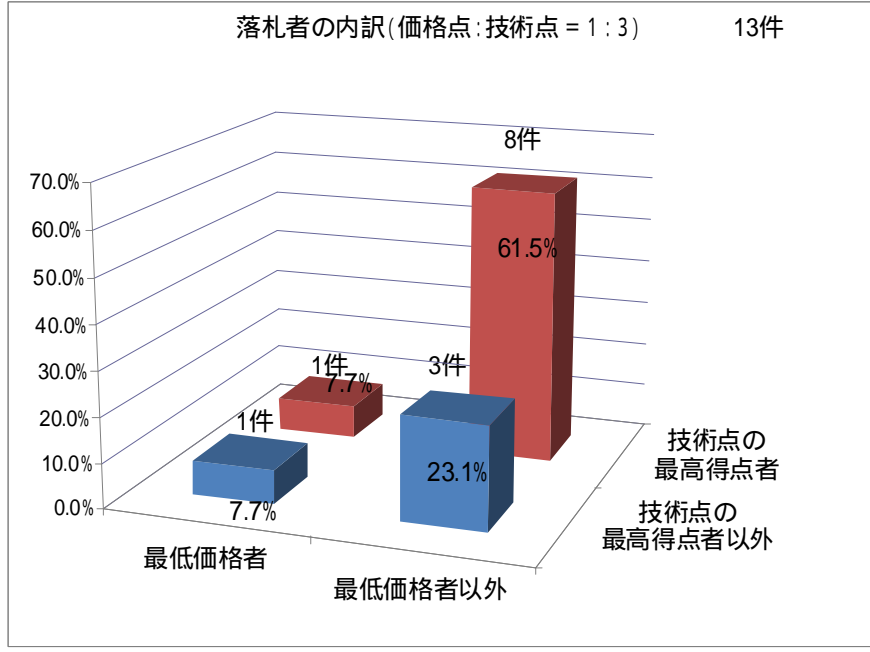
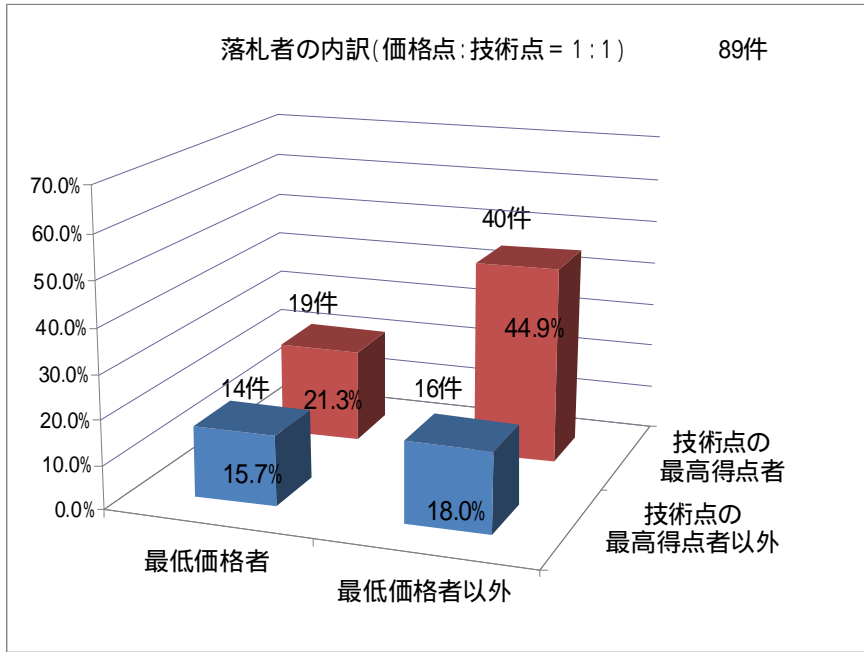
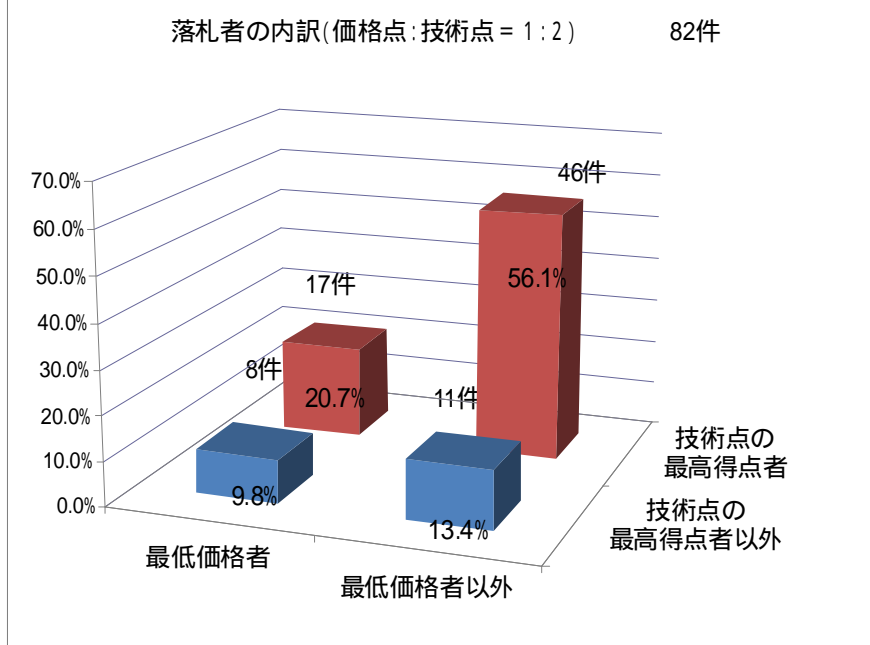
落札者の状況(業種別)



落札者の状況(比率別)

・全比率において、技術点の**最高得点者が落札した割合は6割を超えている。**

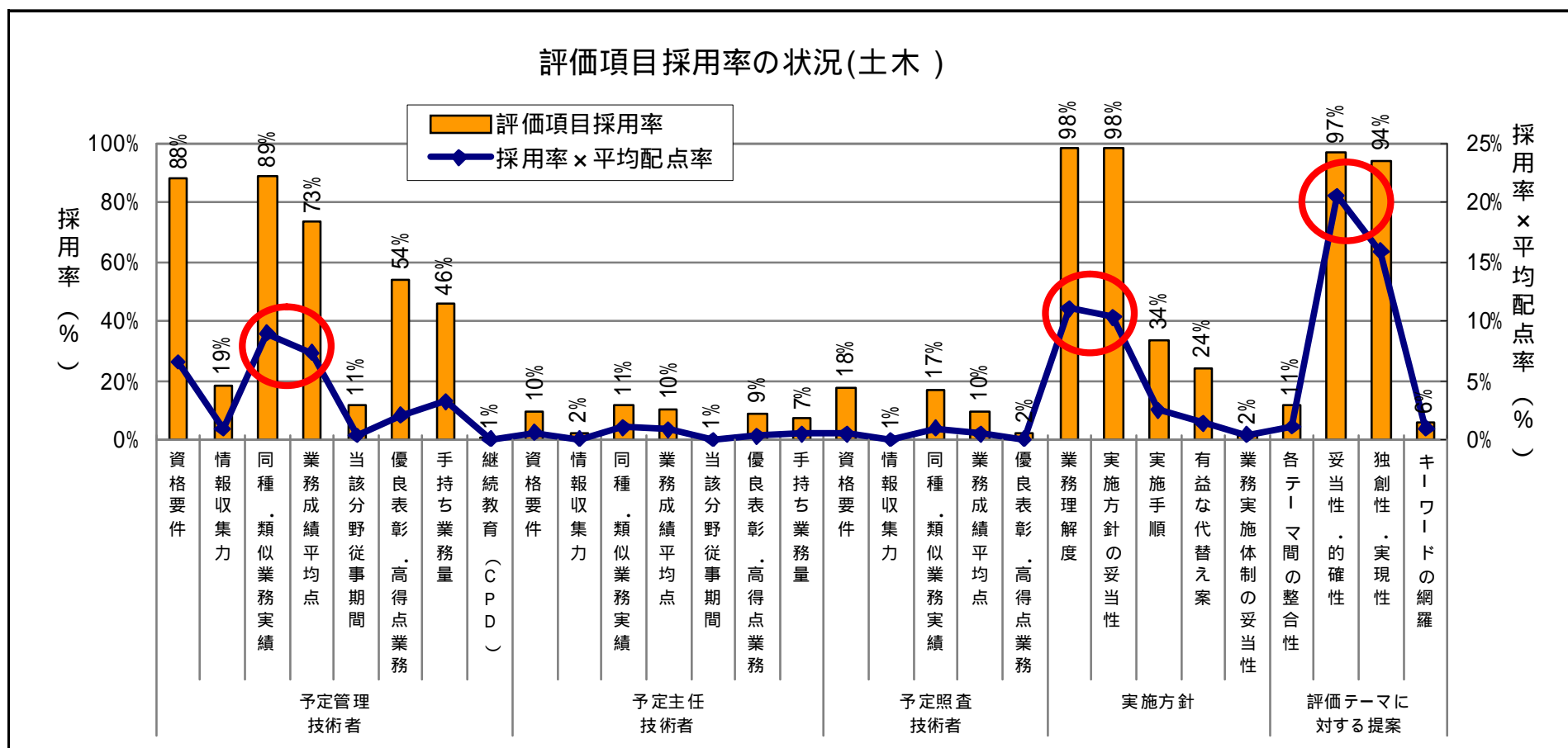
・技術点の割合が高くなると**最低価格者が落札した割合は、37.0%から15.4%に減少している。**



評価項目毎の採用状況(土木)

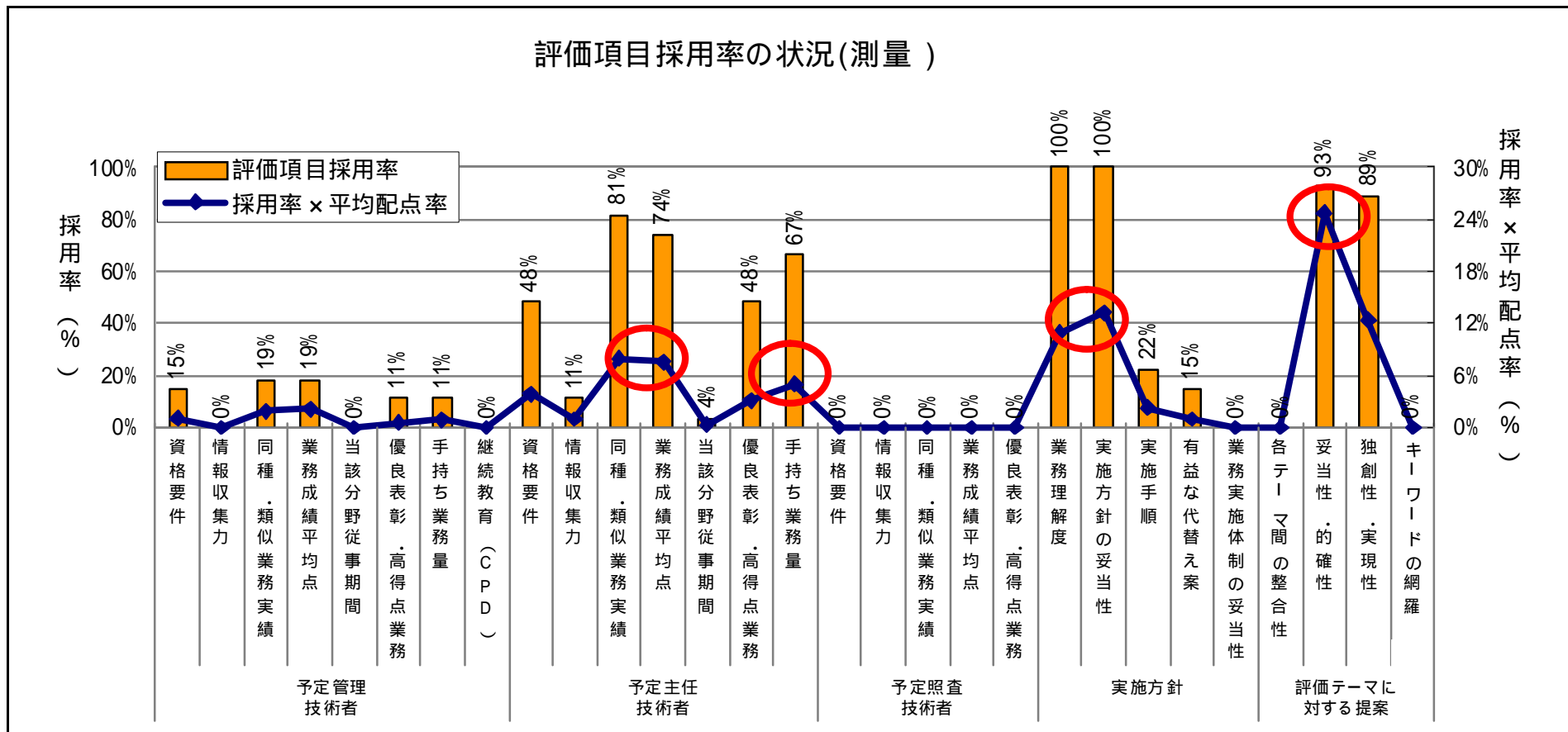
・土木分野における技術評価項目の採用状況は、主として「**予定管理技術者**」、「**実施方針**」、「**評価テーマに対する提案**」に重点が置かれている。

・配点率まで勘案すると「**評価テーマに対する提案**」が最も大きい。



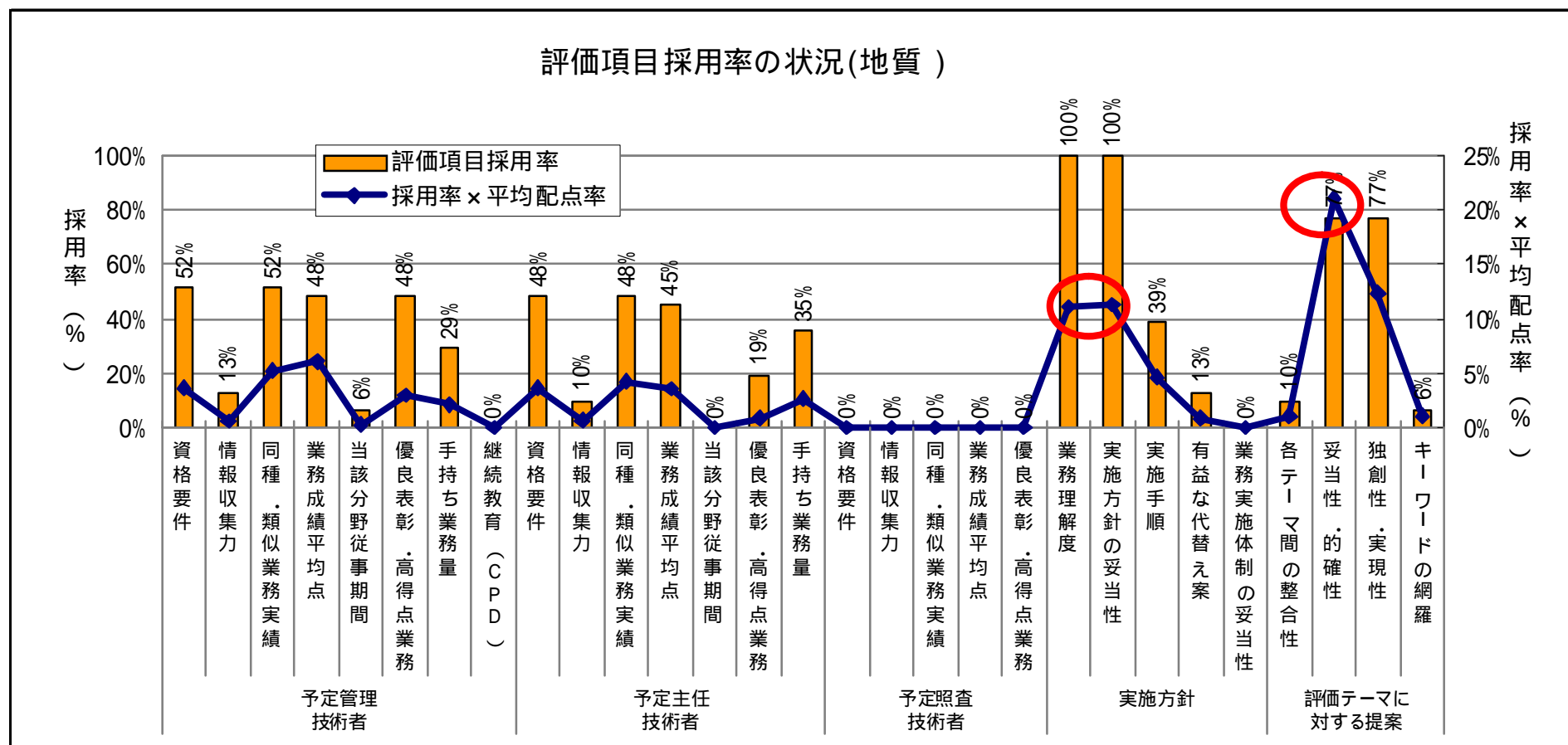
評価項目毎の採用状況(測量)

- ・測量における技術評価項目の採用状況は、主として「**予定主任技術者**」、「**実施方針**」、「**評価テーマに対する提案**」に重点が置かれている。(測量には照査はない)
土木と比較して、「**予定管理技術者**」より「**予定主任技術者**」に重点を置いて評価している。
- ・配点率まで勘案すると土木と同様「**評価テーマに対する提案**」が最も大きい。



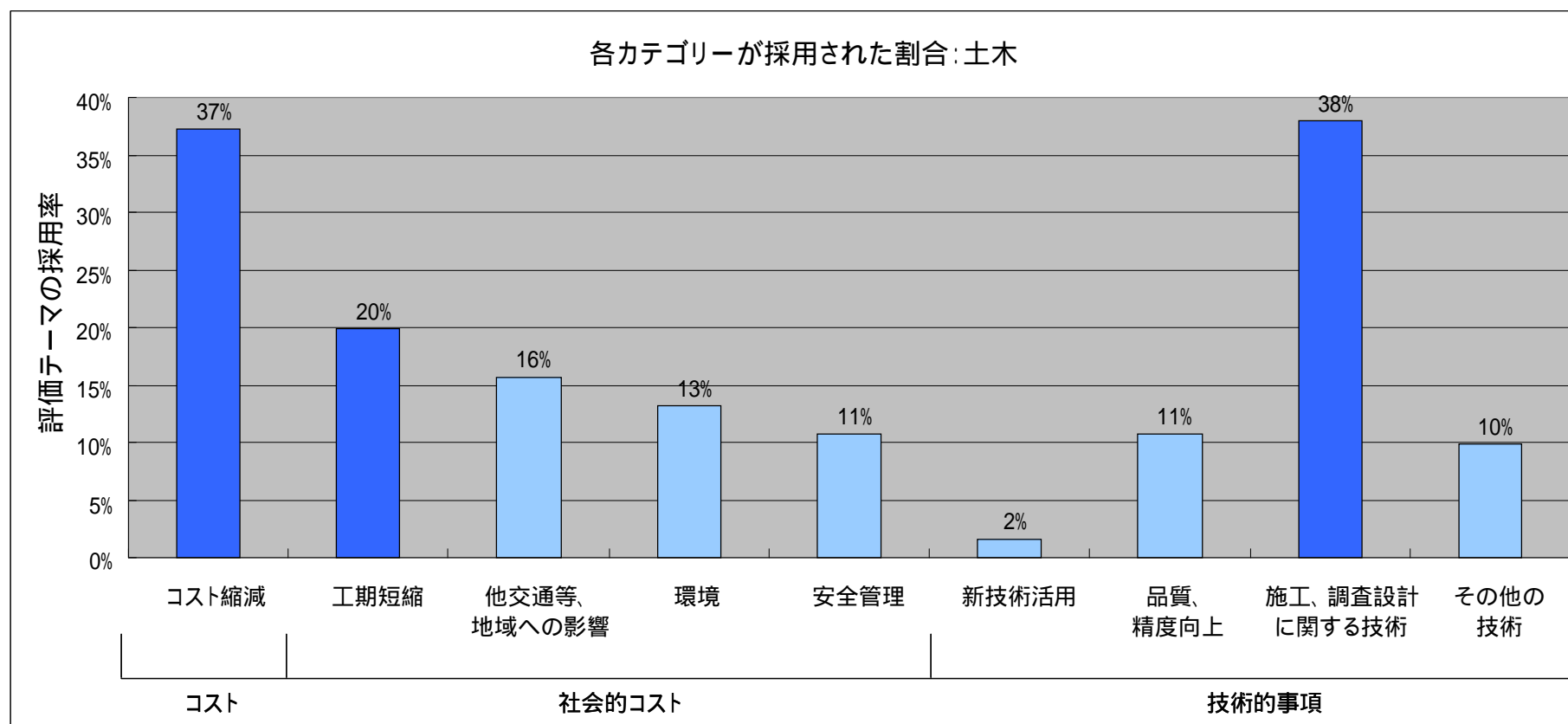
評価項目毎の採用状況(地質調査)

- ・地質調査における技術評価項目の採用状況は、「予定照査技術者」を除き、全体にまんべんなく評価項目が利用されている。(地質調査には照査はない)
土木、測量と比較して、技術者に対する評価が低い。
- ・配点率まで勘案すると土木と同様「評価テーマに対する提案」が最も大きい。



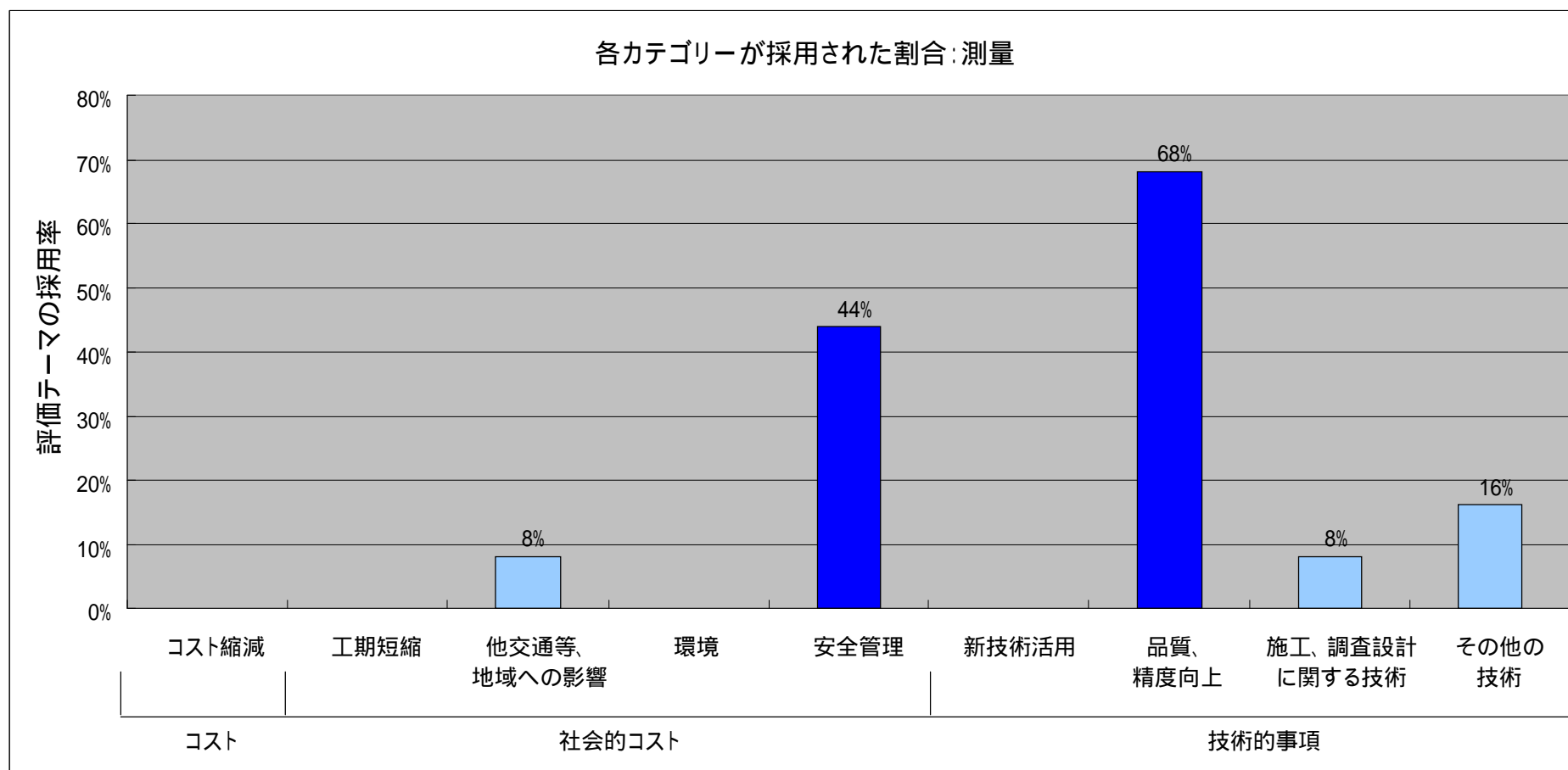
評価テーマの設定状況(土木)

・土木分野における評価テーマは、「コスト縮減」(37%)、「施工、調査設計に関する技術」(38%)、「工期短縮」(20%)が多い



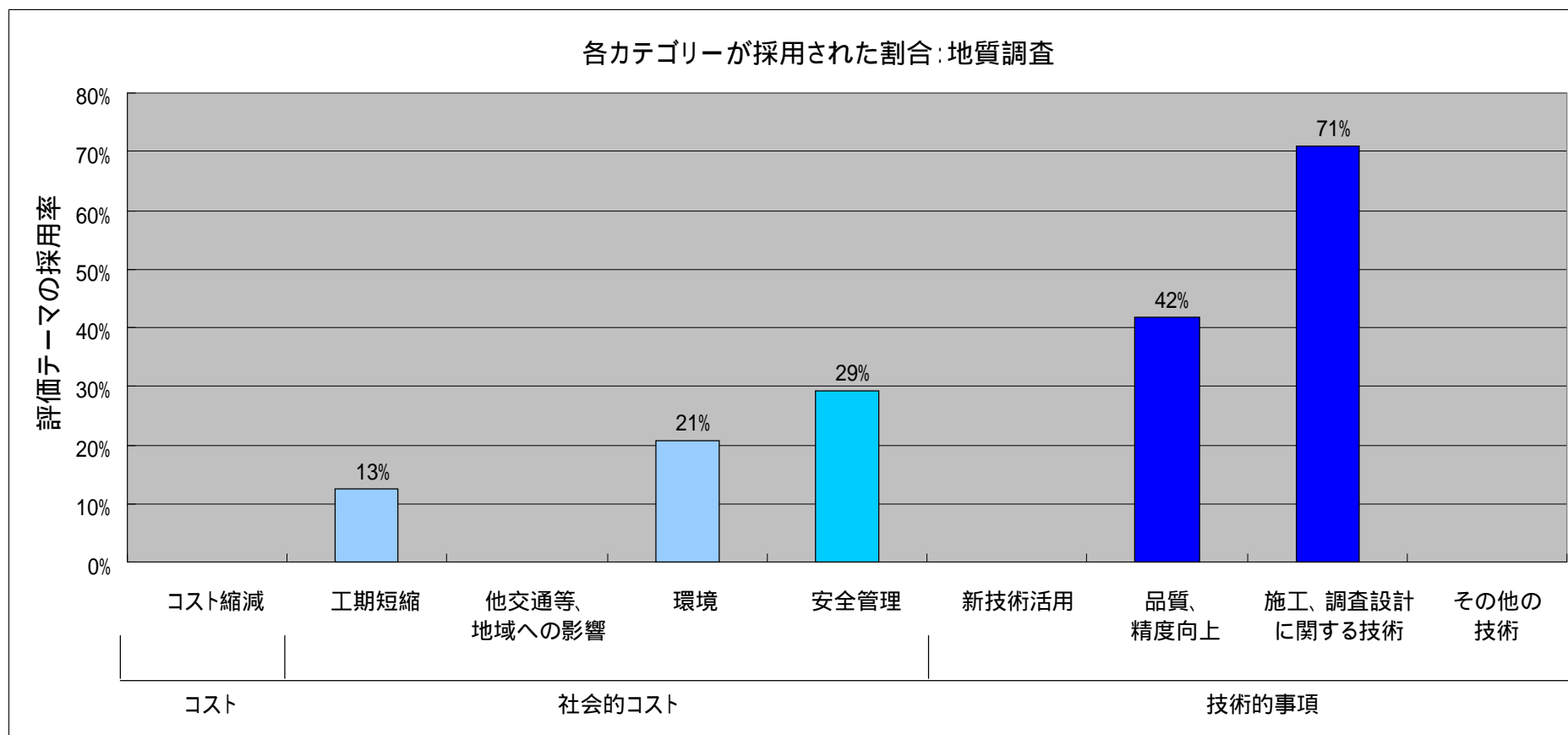
評価テーマの設定状況(測量)

・測量における評価テーマは、「品質・精度向上」(68%)、「安全管理」(44%)が多い



評価テーマの設定状況(地質調査)

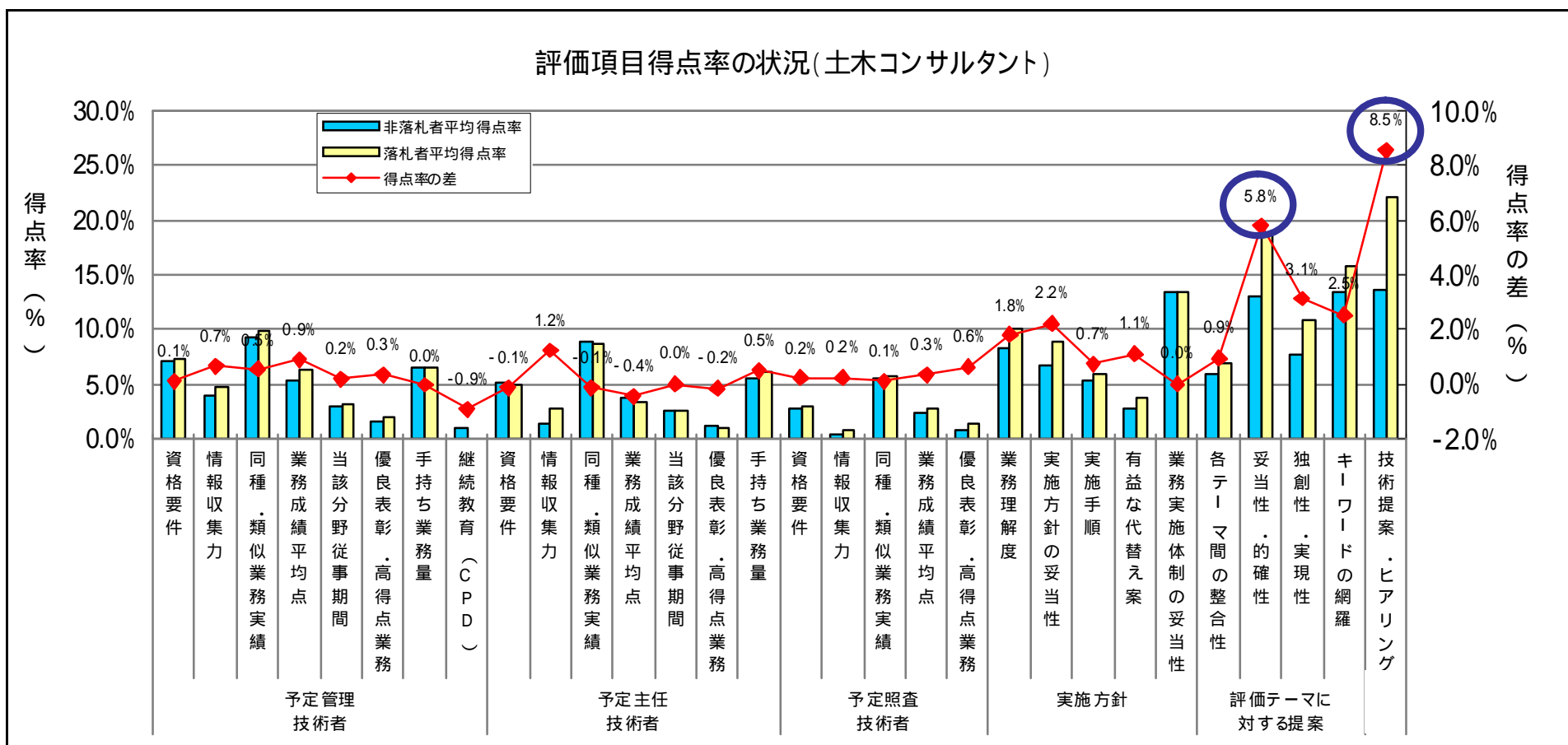
・地質調査における評価テーマは、「施工、調査設計に関する技術」(71%)、「品質、精度向上」(42%)が多い



評価項目毎の得点率(土木)

・土木分野における落札者と非落札者の得点率を比較すると、「評価テーマに対する提案」において差が生じている。

一方、「技術者」の評価では大きな差は生じていない。

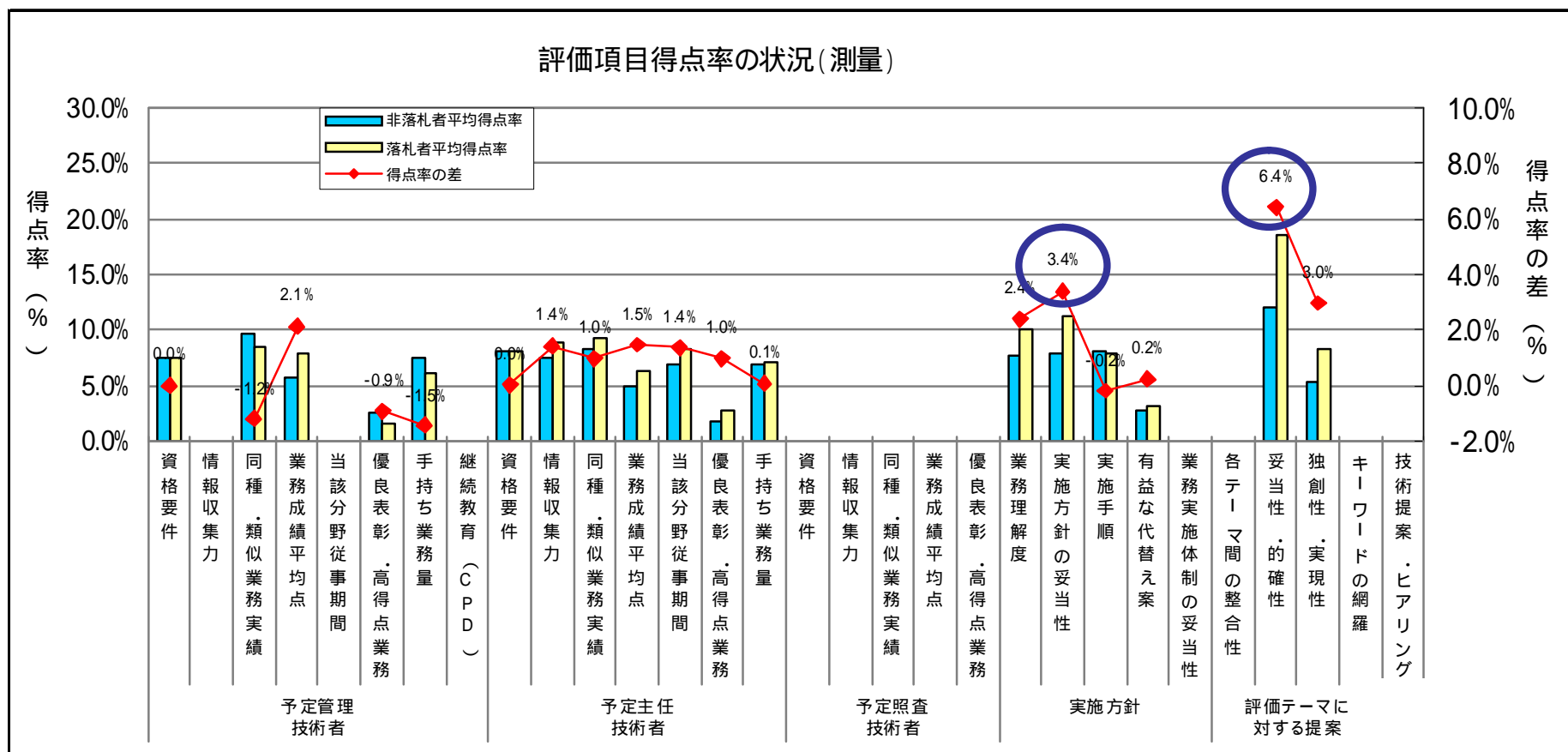


得点率は、満点に占める割合を示す。

評価項目毎の得点率(測量)

・測量における落札者と非落札者の得点率を比較すると、「評価テーマに対する提案」において差が生じている。

土木と比較して、「技術者」や「実施方針」の評価でも差が生じている。

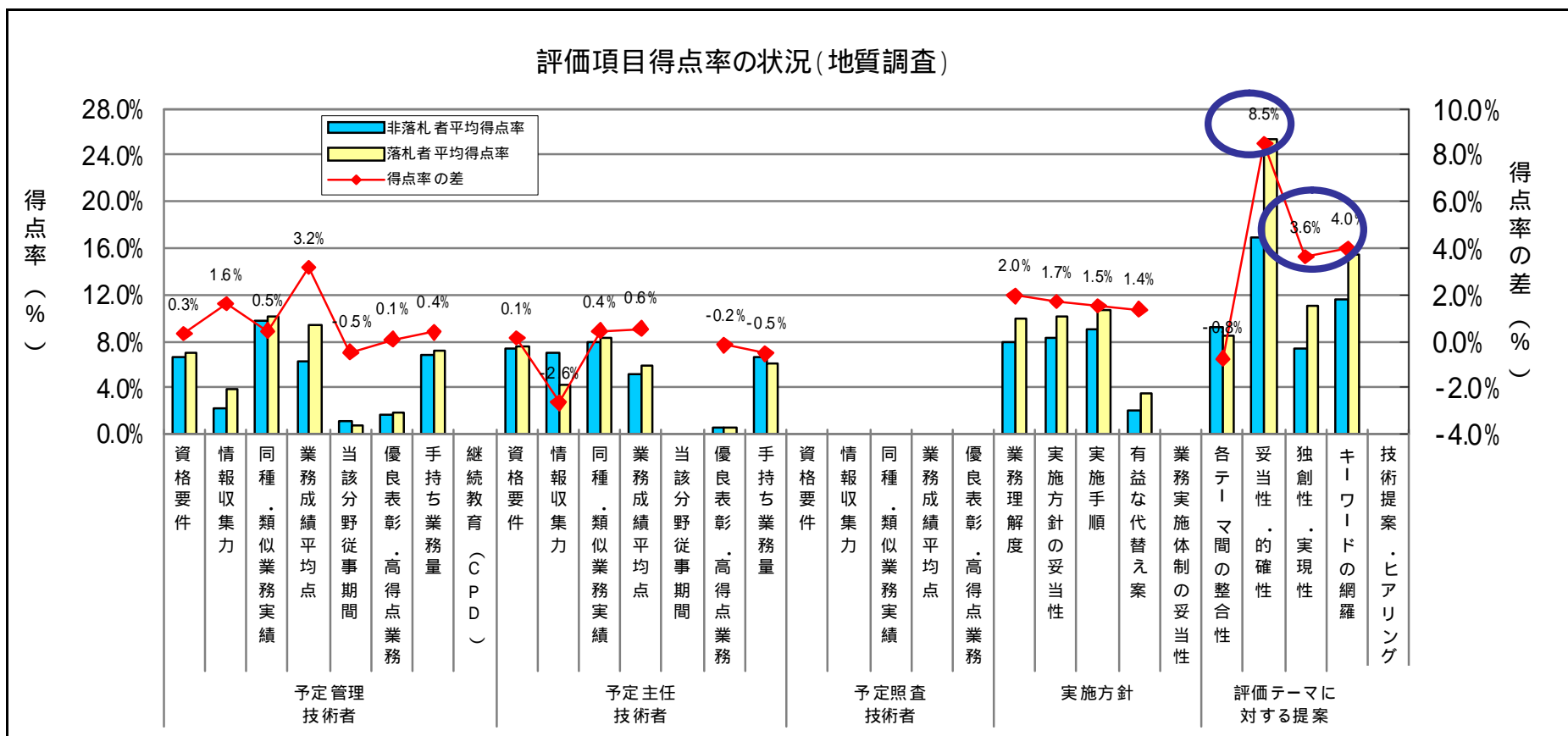


得点率は、満点に占める割合を示す。

評価項目毎の得点率 (地質調査)

・地質調査における落札者と非落札者の得点率を比較すると、「評価テーマに対する提案」において差が生じている。

土木と比較して、「技術者」や「実施方針」の評価でも差が生じている。

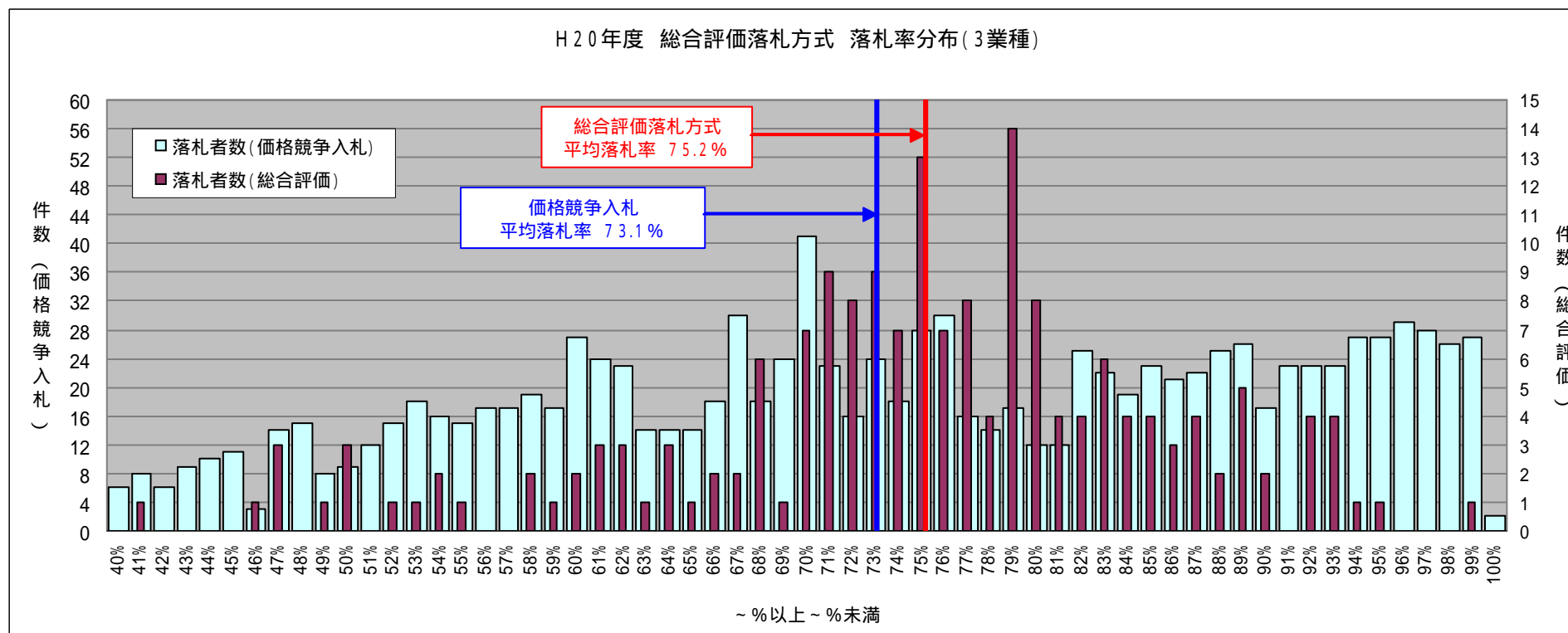


得点率は、満点に占める割合を示す。

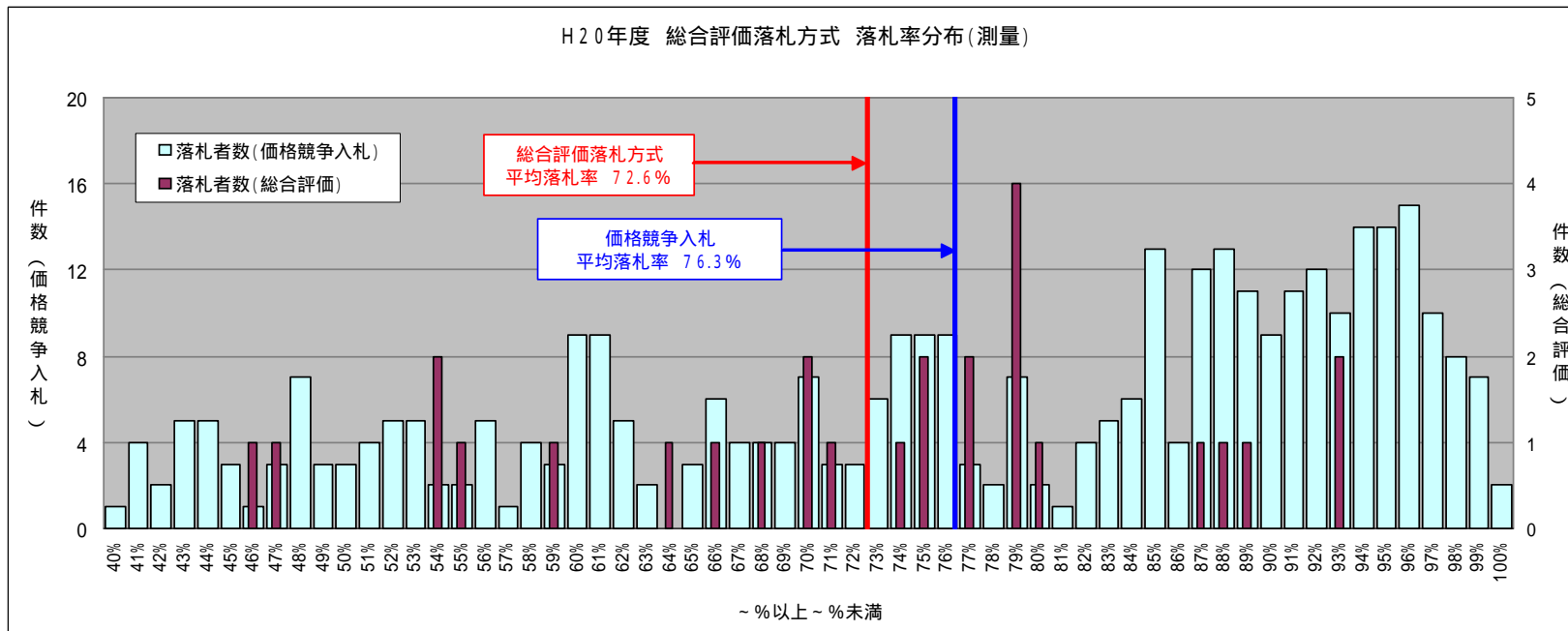
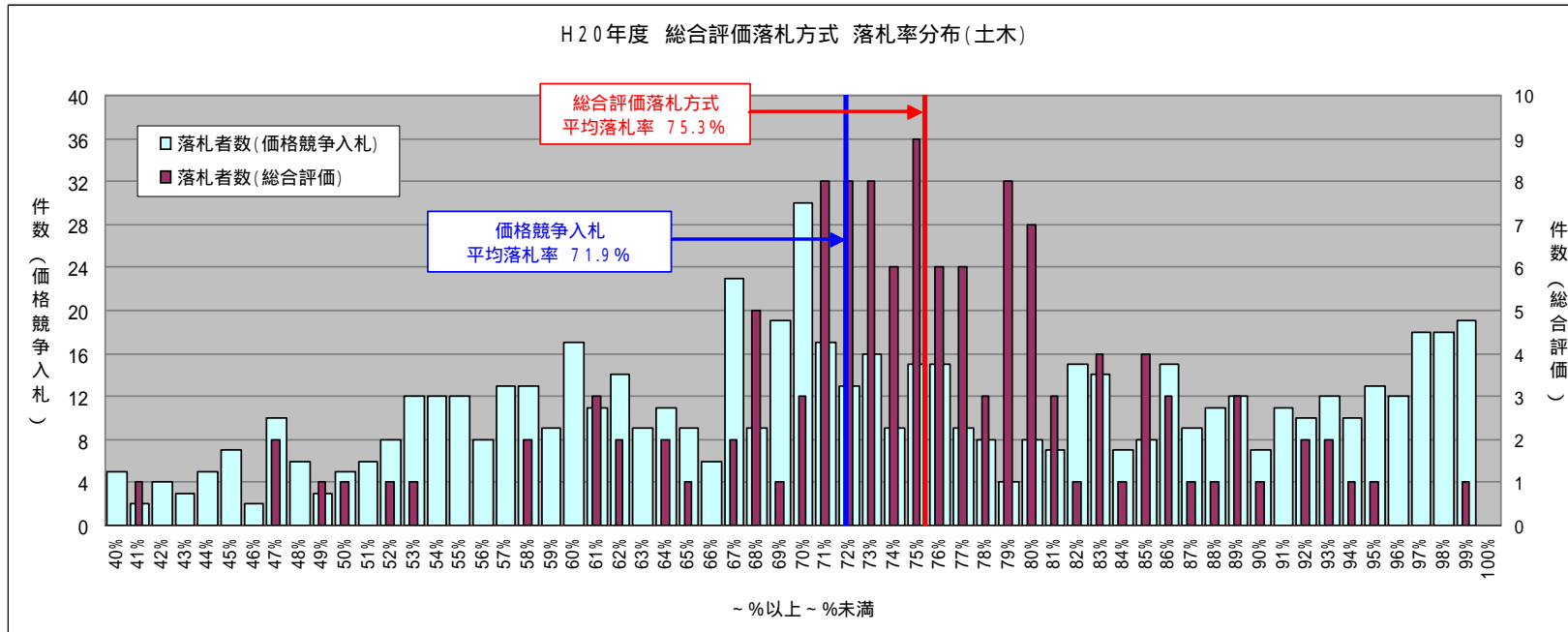
落札率の分布状況

価格競争と総合評価落札方式との比較

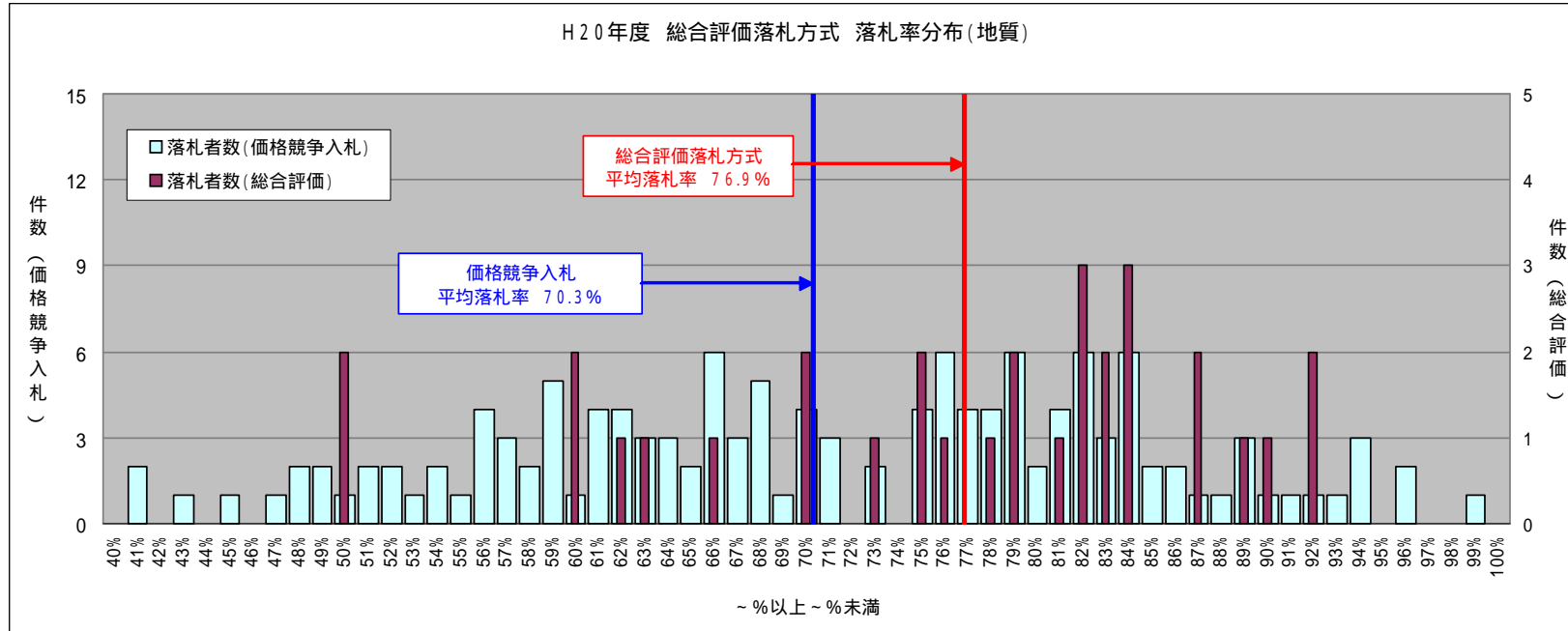
- ・平均落札率は、総合評価落札方式(75.2%)のほうが価格競争方式(73.1%)と比較して**2.1ポイント高い**。
- ・落札率の分布状況を価格のみの競争と比較すると、総合評価落札方式の方がおおむね70%未満の落札割合が低い一方、おおむね90%以上の落札率の割合も低く、**70%~90%に集中した分布状況**である。



落札率の分布状況 (業務別)



落札率の分布状況（業務別）

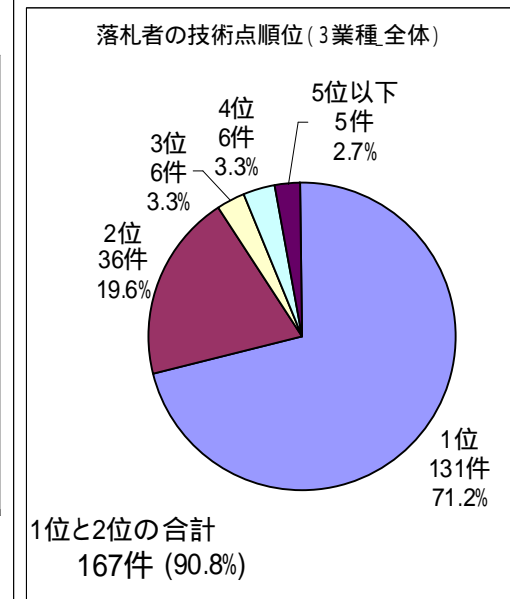
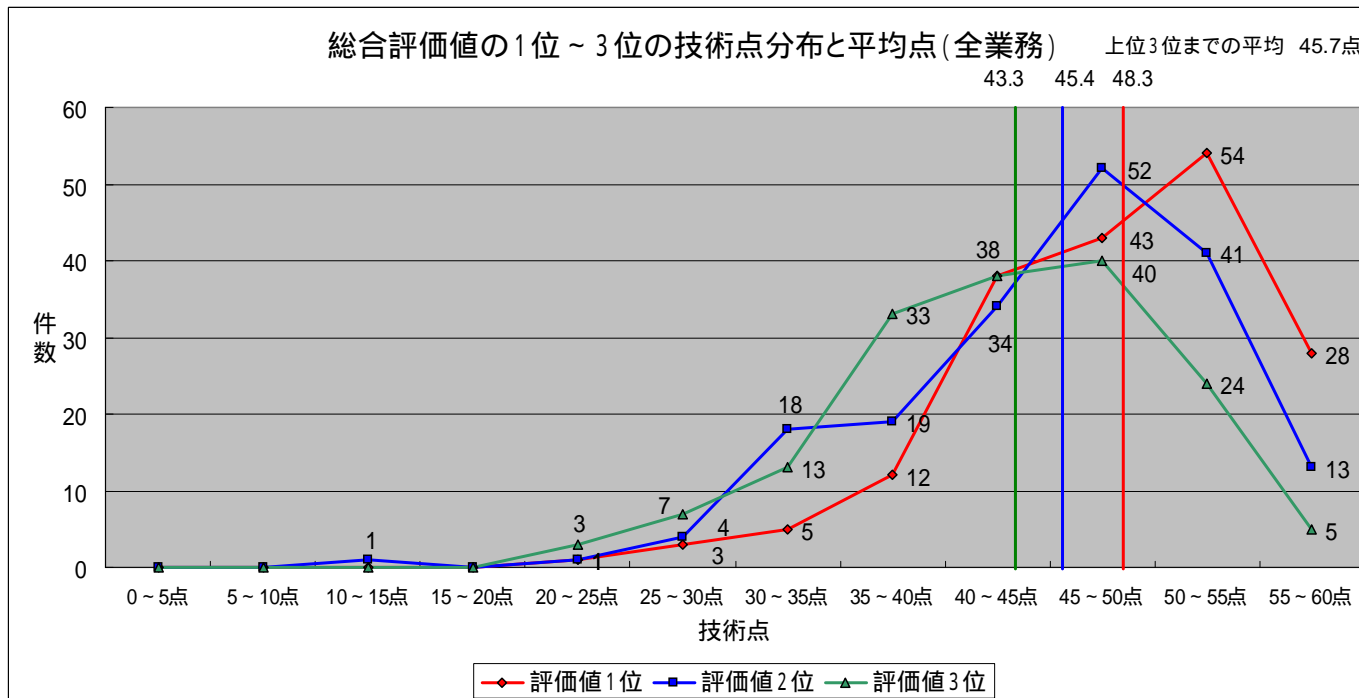
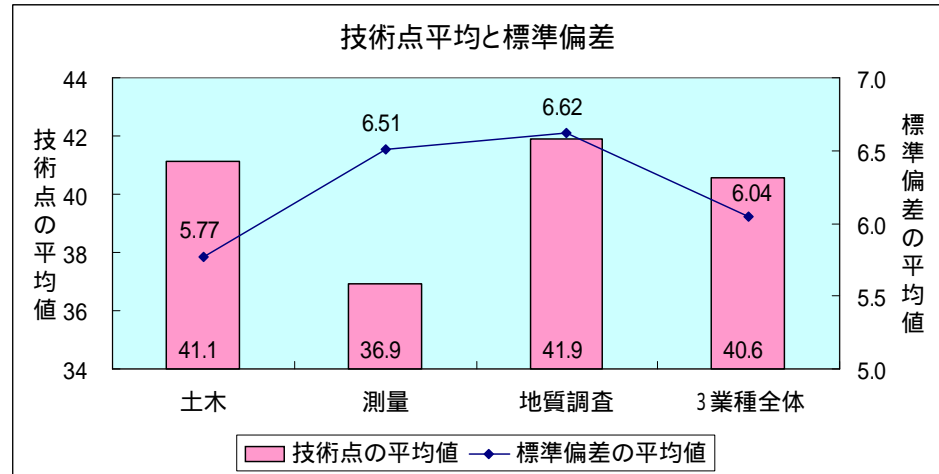


落札者と評価値が2位、3位の技術点分布

・落札者と評価値(評価点)が2位、3位の点数を比較すると、その差はそれぞれ2.9点、5.0点となっており、**全体の1割程度の中で3者の競争が行われている。**(左下図)

・技術点順位が1位又は2位の者が9割以上落札しており、**高いレベルで競争が行われている。**(右下図)

・土木分野の標準偏差が、他の業種に比べて小さく、**技術点の分布が狭い範囲にとどまっている。**(右上図)



1. 価格と品質による総合的な評価について

・調査件数184件中、技術点の最高得点者(最低価格者以外)が落札した割合は51.1%、最低価格者を含め技術点の最高得点者が落札した割合は71.2%であり、**技術競争が優位**な結果となった。

・価格点と技術点の比率について、技術点の割合が高くなるほど最低価格者が落札した割合が37.0%から15.4%に減少しており、**技術点が高いほど技術競争が優位**な結果となった。

・落札率の分布状況について、価格のみの競争と比較すると、平均落札率が2.1ポイント高く、また落札率70%未満の落札割合が低いものの、総じて大きな差は現れていない。

2. 評価項目の採用、得点状況について

- ・評価項目は、**全業種とも「実施方針」、「評価テーマに対する提案」に重点を置く一方、「技術者」の評価はこれらに比べてやや低い状況にある。**
- ・評価テーマの内、**全業種とも「品質・精度向上」、「施工・調査設計に関する技術」を採用割合が多い。**これに加えて土木分野では「コスト縮減」、「工期短縮」を採用する割合も多い。
- ・落札者と非落札者の得点状況を比較すると「**評価テーマに対する提案**」において**最も差が生じている。**
- ・技術点順位が**1位又は2位の者が9割以上落札している。**落札者と総合評価点が2位、3位の技術評価点数を比較するとその差の**平均5点程度の中で競争しており、上位3位までの平均点も45.7点。**高いレベルで競争が行われている。